

正しく恐れ、正しく備えましょう

～今一度、「津波ハザードマップ」の確認を～

■問合せ…危機管理課 (☎025-520-5665)

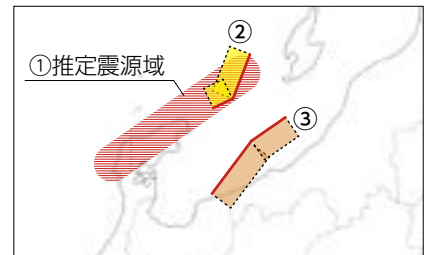
能登半島地震の発生後、さまざまなメディアで「割れ残り」という言葉と共に、佐渡沖の活断層が動く可能性や津波の規模に関する情報が報道されました。

市では、地震災害の状況について関係機関で情報を共有するとともに、今後の災害にどう備えるかを考えるため、2月16日に「令和6年能登半島地震連絡調整会議」を開催し、学識経験者、関係機関から意見を聞きました。専門家の意見を踏まえ、家族や地域で災害時の対応を再確認しましょう。

「割れ残り」って何？

1月1日に発生した地震と津波は、能登半島の北東から南西にかけて、約150kmにわたって活断層（図中①）が動いたことにより引き起こされたものと言われています。

一方で、佐渡沖の活断層（図中②）は、1月1日の地震では、ほとんど動いておらず、今後大きな地震や津波を引き起こす可能性がある「割れ残り」として報道されました。



上越市津波ハザードマップを元に作成

連絡調整会議で示された見解は？

- ① 「割れ残り」と報道された佐渡沖の活断層（図中②）でも、その後の余震により小さな活動が続いている。
- ② 上越市の「津波ハザードマップ」は、新潟県の津波浸水想定に基づき、上越・糸魚川沖の活断層（図中③）が引き起こすマグニチュード7.6の地震による最大規模の津波を想定して作成されている。

※佐渡沖の活断層（図中②）は、マグニチュード7.3を想定

- ③ 今後、仮に「割れ残り」とされる佐渡沖の活断層（図中②）により地震と津波が発生したとしても、津波ハザードマップで想定している津波（到達時間および規模）を超えるものではない。



これからどのように地震・津波に備えたらいいの？

これまでと同様、現行の「津波ハザードマップ」や「防災ガイドブック・避難所マップ」に基づき、家庭・地域・職場で地震・津波に備えてください。

個人や家族で

- ① 自宅やよく行く場所の災害リスクを確認
- ② 避難場所や避難経路、避難にかかる時間を確認
- ③ 非常持ち出し品、備蓄品を準備

地域(自主防災組織)や職場で

- ① 危険箇所の把握・共有や防災知識の普及啓発、防災資機材などを整備するとともに、防災訓練を繰り返し実施
- ② 単独での避難が難しい人の避難について、自助・共助を基本とする中で、市や自主防災組織などと連携して、車を活用することも検討



津波ハザードマップ



防災ガイドブック
避難所マップ